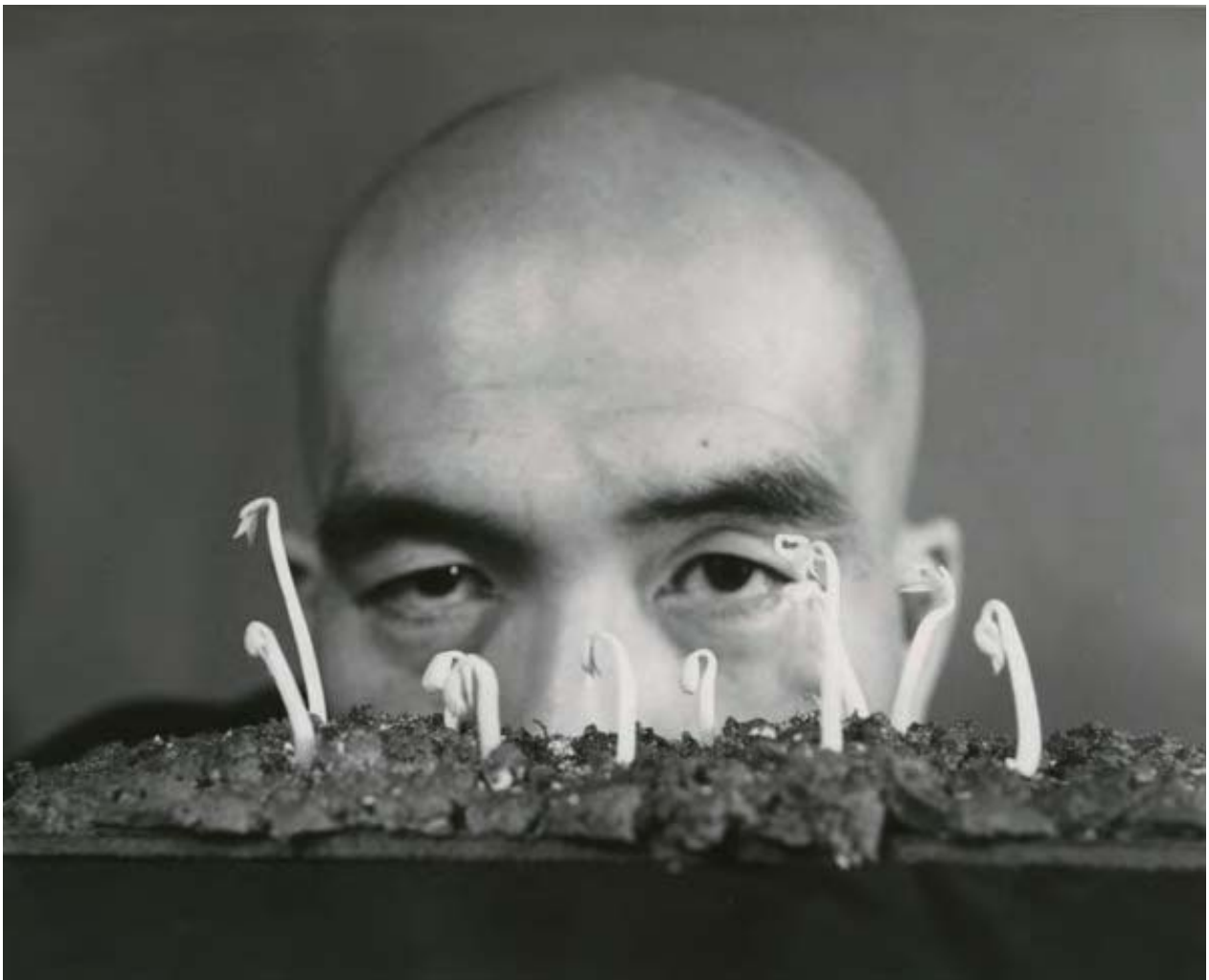


あなたの
肖像
—
工藤哲巳
回顧展

東京国立近代美術館

2014年2月4日(火) ~ 3月30日(日)



工藤哲巳 1971年 撮影：工藤弘子 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013

日本の戦後美術における異形・異能の芸術家 工藤哲巳 東京で初めての回顧展

工藤哲巳（1935-90）は、東京藝術大学在学中から作品の発表を始め、「反芸術」の代表的作家のひとりとして、早くから世間の注目を浴びました。1962年以降はパリに拠点を移し、80年代半ばまで、主に欧州で活動します。日本では「反芸術」の印象の強い工藤ですが、それは最初の数年間に過ぎません。とくにパリに拠点を移したのは、文明ないし社会批評的観点から作品を制作していきました。本展では日本初公開の作品に加え、彼が作品制作と同様に取り組んできたパフォーマンスに関する記録映像、写真など、総数200点を超える作品や資料を展示し、彼の活動の全貌を紹介致します。日本では20年ぶり、東京では初めての回顧展です。

「あなたの肖像」？

「あなたの肖像」？ キモチわるい。こんなものが「わたしの肖像」のはずがないじゃないか。

こんな風を感じた、あなた。とっても見る目があります。

なぜならそれこそ、工藤哲巳があなたに期待した反応と、ひとまずは言うことができるからです。

工藤にとって作品とは、彼の言葉を借りて一言で表すと、「コミュニケーションのだし」。つまり、彼の作品を見るという行為は、目の前にある事物を完結した作品として受動的に受け取ることはありません。作品の機能は、作品から発せられた挑発や刺激が私たちの反応を引き出し、それにより作家の世界観との対話へと促すことにあります。だから、あなたの狼狽や戸惑い、思わず目が離せなくなる、あるいは反対に目を背けるという振る舞い（これらはいずれもコミュニケーションにおける態度のひとつです）は、まさしく工藤哲巳の作品世界と交流するためのとば口だったわけです。

折角ですから、立ち止まって、よく見てみてください。

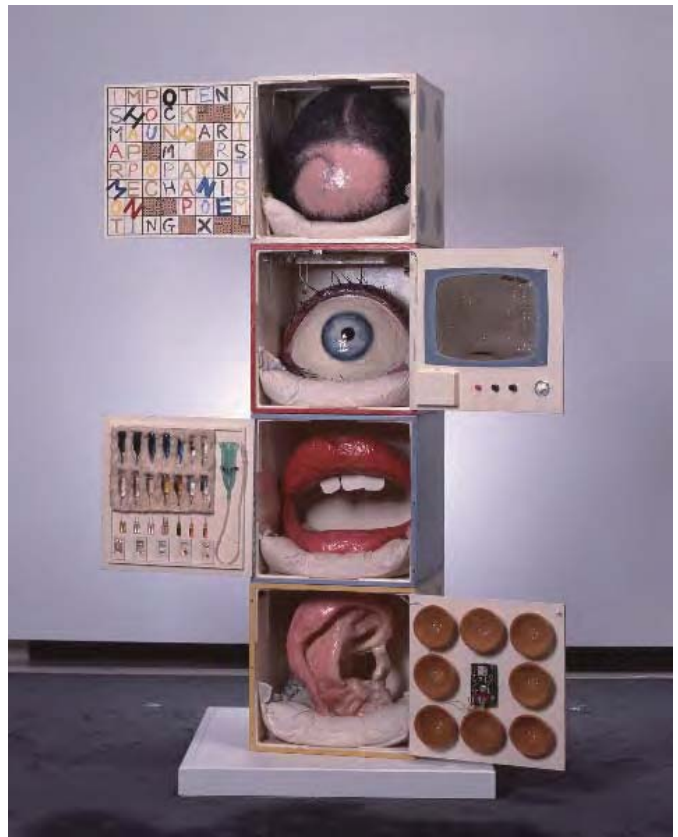
「あなたの肖像」は、鳥かごや箱に幽閉され、同時に守られてもいます。身体は断片化されたり、萎んだり、肥大化したり、あるいは日用品や電子回路と渾然一体となっています。鮮やかな蛍光色もまた、人工的な色彩感覚を呼び起こします。

大きさに作られてはいます。けれども私たちは、実際にこのようなものではないでしょうか。良識や既成概念、道徳、そのような「枠組み」に意識的にせよ、無意識的にせよ、私たちは縛られ、同時にそれによって守られてもいます。また、サプリメントや化学物質、合成着色料、そして科学技術から切り離された世界で、もはや生きることはできません。そう。ここにあるのは嘘でも妄想でも、ディストピアでもなく、端的な「現実の模型」です。でも、工藤はどうしようもなくイヤな「現実」を見せつけて、私たちを絶望の淵へと叩き込もうとしているのでしょうか。いえ、そうではありません。むしろ「現実」を見つめたうえで、そのなかでいかに生きていくか。いかに己を変革することができるか。その可能性の展開を、作品を介した作者と私たちとの関係性のなかで派生するコミュニケーションそのもののうちに見出したのです。その意味で工藤の作品は、毒々しい見た目とは裏腹に「絶望に効くクスリ」なのです。

また、欧州において言語の不如意によるコミュニケーション不全をものともせず、作品をコミュニケーションの手段として、相互交流を切り開いていこうと試みた彼の態度は、ともすれば内向きになりつつあるとも言われる私たちにとって見習うべきバイタリティに満ちています。

ところで、日本を離れ、長い間、欧州を拠点としてきた彼の活動は、日本においてこれまで十分に検証されることはありませんでした。

日本では 20 年ぶり、東京では初の回顧展となるこの機会は、工藤哲巳の全貌を明らかにしようと試みるものです。



《あなたの肖像》1963年 高松市美術館蔵 撮影：高橋章
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013

工藤哲巳とは、一体何者？

1935年、大阪生まれ。父の出身地である青森で少年時代を過ごし*1、父の早世後、母の郷里の岡山で高校時代*2を過ごしました。東京藝術大学に進学*3。大学在学中から、「読売アンデパンダン」展*4を中心に作品の発表を開始。篠原有司男や荒川修作たちが結成した「ネオ・ダダ」*5とともに、「反芸術」*6の代表格として注目されました*7。1962年、渡仏。以来、日本と行き来するようになる80年代半ばまで、欧州を中心に活躍。ヨーロッパでは、「あなたの肖像」のシリーズに代表されるように、同地の「良識」*8を挑発する作品やパフォーマンス*9を次々と展開。1972年には、アムステルダム市立美術館*10で個展が開催されました。

1970年代後半頃から、徐々に内省的な雰囲気を含んだ作品へと変化していきます。1987年には、母校の東京藝術大学の教授に就任*11。1990年11月12日、55歳の若さで世界しました。彼の作品は一見するとグロテスクですが、それらは物理学や数学、文明社会への関心を踏まえ、「社会評論のモデル」として、見る者の既成概念を揺るがすことを目的に作られています。

1994年には国立国際美術館で回顧展。2007年にはメゾン・ルージュ（パリ）、2008年にはウォーカー・アート・センター（ミネアポリス）*12で回顧展が開かれるなど、世界的に再評価の機運が高まっています。

- *1 ちなみに青森が生んだ希代の劇作家・寺山修司は工藤と同じ1935年生まれ。五所川原から弘前に越した工藤少年と、弘前から三沢、青森市内へと移動していった寺山少年は、当時、会うべくもなかった。
- *2 岡山県立岡山操山高校。創立110年を超える伝統校。現在でも進学校として有名。卒業生に甲本ヒロトや原研哉などがある。
- *3 藝大時代の同期には磯辺行久、伊藤隆康、篠原有司男、高松次郎、中西夏之など。言ってみれば、戦後美術のゴールデン・エイジ。
- *4 1949年、読売新聞社主催によって発足した、一定の要件を満たせば誰でも出品のできる展覧会。東京都美術館を会場に使用していた。公募団体による展覧会が作品発表の場所として一般的だった時代にあって、自由に発表のできる貴重な舞台だった。1957年頃から既成の美術概念を大きくはみ出す作品の出品が増え、展覧会は混沌を極めていった。1964年の第16回展直前に主催者によって突如中止が通達され終了する。
- *5 ネオ・ダダイズム・オルガナイザー（ズ）。1960年に結成。主なメンバーに吉村益信、篠原有司男、荒川修作、赤瀬川原平など。建築家磯崎新の建てた吉村の自邸、通称「ホワイト・ハウス」を根城に、廃物や日用品の使用、即興的な街頭パフォーマンスなどを繰り返した。工藤はこのグループの面々と親しく、グループに参加するようたびたび誘われたが、加入することはなかった。
- *6 美術評論家・東野芳明が、『読売新聞』の美術欄の記事で、工藤の作品を代表例のひとつに挙げ、従来の美術作品では用いられない、日用品や廃物といった素材を使用して作られた作品を形容するために使った言葉。
- *7 美術評論家・瀧口修造も、当時から工藤を評価していた。
- *8 ヨーロッパが長く培ってきたヒューマニズム（人間中心主義。工藤によれば、自然対人間、あるいは機械対人間を二分し、必ず人間を優位に置く考え方）への批判を展開した。
- *9 男根状のオブジェを抱えて踊る、切腹パフォーマンスを行なう、（模造）精液入りコンドーム（中身は主にヨーグルト）を配り歩く、蠟で作った人の顔をアイロンで溶かして潰す、など。
- *10 2012年9月にリニューアルした、オランダの首都アムステルダムを代表する市立美術館。巨大なバスタブのような外観が話題を呼んでいる。
- *11 教授会に酒瓶を抱えて現れるなどの破天荒ぶりを見せていたという噂。
- *12 担当キュレーターは、ドリユン・チョン氏。同展覧会を手がけたのち、ニューヨーク近代美術館に移籍。東京の戦後前衛美術に焦点を当てた「Tokyo 1955-1970: A New Avant - Garde」を手がけた。現在は、2017年に開館を予定している香港のM+美術館（建築はヘルツォーク&ド・ムーロン）のチーフ・キュレーター。11月23日、国立国際美術館で開催される国際シンポジウム「工藤哲巳をめぐって」（仮）に登壇予定。

本展の見どころ

* 世界で再評価の進む工藤哲巳。日本では20年ぶり、東京では初の回顧展。

1994年に大阪の国立国際美術館で開催された回顧展以来、国内では20年ぶりの回顧展、東京では初の回顧展です。

* 日本初公開の作品を含む国内外の代表作200点が集まる大展示会。

アムステルダム市立美術館、アントワープ現代美術館、ポンピドゥー・センター（パリ）、ニューヨーク近代美術館などをはじめ、海外から借用する作品の多くは日本初公開です。工藤の活動を包括的に紹介する初めての機会と言えるでしょう。

* 「読売アンデパンダン」展の傑作。約半世紀ぶりに日本に帰国。

1962年第14回「読売アンデパンダン」展での出品作《インポ分布図とその飽和部分に於ける保護ドームの発生》（ウォーカー・アート・センター蔵）が、約半世紀ぶりに日本で展示されます。ひとつの展示室を丸ごと占有したこの作品は、今の言葉で形容すればインスタレーションとも言うべきもので、赤瀬川原平曰く、「この年の最大傑作」と高く評価された伝説的作品です。

* 豊富な記録写真や映像資料

工藤は作品制作のみならず、自身の身体を用いて数々のパフォーマンス（ハプニング／セレモニー／パフォーマンス）を行いました。これらを記録写真、記録映像、関連資料によって紹介します。

* 展示会特設サイトをオープン！

東京国立近代美術館、国立国際美術館、青森県立美術館の3館で特設サイトを運営します。会期中、情報を随時更新していきます。こちらもぜひチェックしてみてください！ <http://www.tetsumi-kudo-ex.com>

展示会構成

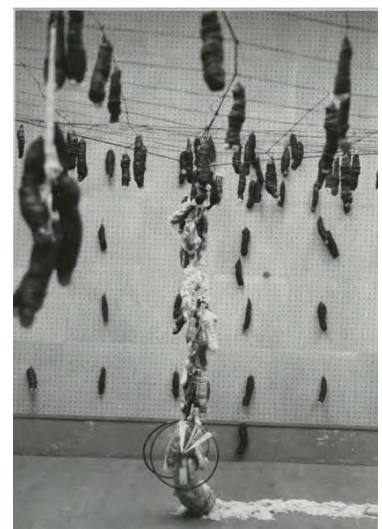
概ね時系列に展示し、工藤作品の全体像を包括的に振り返ることのできる構成です。

1) 1956-62 Tokyo

工藤哲巳は、大学卒業前後から主に「読売アンデパンダン」展で活躍しました。当初はアンフォルメル風の絵画を描いていましたが、増殖をテーマに無数の紐の結び目からなる立体の作品、木の根っこに無数の釘を打ちつけた作品などを制作するようになりました。一連の作品には「融合反応」や「増殖性連鎖反応」といった物理学の用語を思わせる題名がつけられています。また、ここでは「読売アンデパンダン」展の会場一室を占有して話題となった《インポ分布図とその飽和部分に於ける保護ドームの発生》も紹介します。

2) 1962-69 Paris

パリに到着した直後から工藤は現地の芸術家、批評家たちと交流し、多くの展示会に参加しました。また、この頃から箱や鳥かご、温室といった対象を閉じ込めるかのようなフレームを用いるようになります。断片的な身体、あるいは肥大化したり溶け出したりする身体が、それぞれサイコロを

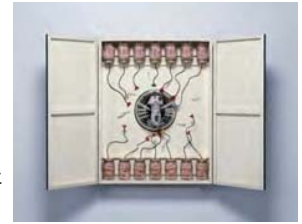


《インポ分布図とその飽和部分に於ける保護ドームの発生》 1961-62年
ウォーカー・アート・センター蔵
撮影：吉岡康弘

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013

模した箱に入れられ積み上げられた《あなたの肖像》や、観音開きの戸棚のような矩形のなかに、瓶詰にされた人形が並ぶ《あなたの偶像》など、閉所に押し込められ、一方でそのなかで保護される人間の様相を表現したショッキングな作品を発表し、物議を醸しました。

《あなたの偶像》1962年
東京国立近代美術館蔵



3) 1969-70 Mt. Nokogiri (Chiba)

1969年、一時帰国。さなぎと男根のダブルイメージを象った巨大なモニュメント《脱皮の記念碑》を、千葉県鋸山の断崖に制作しました。学生運動の渦中に飛び込み、若い世代との交流を図りました。

《脱皮の記念碑》1969年
岸壁モニュメント、鋸山（千葉県房総）
撮影：吉岡康弘



4) 1970-75 Düsseldorf, Paris, Amsterdam, and Milan

環境汚染、放射能などの公害問題をテーマに、人間と自然と科学技術とが共生するモデルを提示した作品「環境汚染—養殖—新しいエコロジー」を、1971年頃から展開しました。個展を行ったデュッセルドルフでは、劇作家・イオネスコの手掛けた映画の舞台美術の制作を手伝いました。しかし、その後、彼をヨーロッパの悪しき知識人の典型として批判の俎上に乗せ、「イオネスコの肖像」を制作。また、《コンピュータ・ペインティング》と題された平面作品に取り組みました。



《放射能による養殖（小さな温室、オレンジ、緑）》
1968年 国立国際美術館蔵

5) 1975-80 Okayama, Berlin, and Paris

岡山でのグループ展のために一時帰国したのち、ドイツ学術交流基金（DAAD）の奨学金でベルリンに一年間滞在し、制作を行いました。1975年頃から、作品の見た目は攻撃的なものから徐々に内省的なものへと変化していきました。まるで逃れられない運命や遺伝子のネットワークを手繰るかのよう、綾取りを行なう姿の自画像などが制作されるようになります。1980年にはアルコール中毒治療のため、一時入院しました。



《マザー・コンプレックス・パラダイス》1980年
高松市美術館蔵

6) 1980-90 Tokyo, Paris and Hirosaki

70年代後半から見られるようになった糸の塊は、次第に繭玉として独立し、《二つの軸とコミュニケーション》といった作品に発展していきます。ここでは、自らの死が近いことを悟ったうえで制作されたと思われる晩年作品《前衛芸術家の魂》や人魂、凧などの作品を紹介します。

《前衛芸術家の魂》1986年
青森県立美術館蔵



展覧会概要

タイトル	あなたの肖像—工藤哲巳回顧展 Your Portrait: A Tetsumi Kudo Retrospective
会期	2014年2月4日(火)—3月30日(日)
開館時間	午前10時—午後5時(金曜は午後8時まで、入館はいずれも閉館30分前まで)
休館日	月曜日(3月24日は開館)
主催	東京国立近代美術館、国立国際美術館、青森県立美術館
協力	日本航空株式会社
会場	東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅 1b 出口 徒歩3分
観覧料	一般 850(600)円 大学生 450(250)円 高校生以下および18歳未満、障害者手帳などをご提示の方とその付添者(1名)は無料。 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル)
HP	http://www.momat.go.jp 展覧会特設サイト http://www.tetsumi-kudo-ex.com
イベント	<p>●講演会</p> <p>①2月22日(土)14:00-15:30 堀浩哉(美術家、多摩美術大学教授) *記録映画「脱皮の記念碑 工藤哲巳の記録」の上映後、当時から工藤と交友関係を築いた堀氏にお話を伺います。</p> <p>②3月1日(土)14:00-15:30 沢山遼(美術批評家)「工藤哲巳—自動生産の工学」</p> <p>③3月15日(土)14:00-15:30 中嶋泉(美術史家、明治学院大学研究員)「工藤哲巳と草間彌生」 *いずれも講堂(地下1階)にて。開場は開演30分前 * 申込不要、聴講無料(先着150名)</p> <p>●ギャラリートーク</p> <p>①2月14日(金)18:00-19:00 榎田倫広(当館研究員、本展担当者)</p> <p>②3月14日(金)18:00-19:00 榎田倫広(当館研究員、本展担当者) *1階企画展ギャラリーにて * 申込不要、参加無料、要観覧券</p> <p>●上映会</p> <p>記録映画「脱皮の記念碑 工藤哲巳の記録」(1970年) 2月8日(土)14:00-14:30 * 無料、申込不要、先着150名 * 講堂(地下1階)にて。開場は開演30分前</p>
同時開催	「MOMATコレクション」所蔵品ギャラリー(4F-2F) 「泥とジェリー」 会期:1月21日(火)—4月6日(日) いずれも観覧料:一般420(210)円 大学生130(70)円 高校生以下および18歳未満、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、65歳以上、 障害者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。 ()は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 *「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」の観覧券で、当日に限り、「MOMATコレクション」 「泥とジェリー」もご覧いただけます。

「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」報道関係お問合せ先

東京国立近代美術館 企画展室 広報担当

TEL: 03-3214-2561(代表) / FAX: 03-3214-2576 / e-mail: pr@momat.go.jp

広報画像

別紙「広報用画像申込書」にて申請いただけます。



1 工藤哲巳 1971 年
撮影：工藤弘子



2 ハプニング「インボ哲学」ブローニュ映画撮影所（パリ）
1963 年 2 月 撮影：工藤弘子



3 《X型基本体に於ける増殖性連鎖反応》1960 年
東京都現代美術館蔵



4 《あなたの肖像》1963 年
高松市美術館蔵 撮影：高橋章



5 《愛》1964 年
倉敷市立美術館蔵



6 《あなたの肖像 '67》1967 年
青森県立美術館蔵



7 《あなたの肖像—種馬の自由》1973年
米津画廊蔵 撮影：福永一夫



8 《石油と放射能の間での瞑想》1979年
福岡市美術館蔵



9 《未来と過去とのエンドレステープの間での瞑想》1979年
青森県立美術館蔵 撮影：内田芳孝（ノマディック工房）



10 《マザー・コンプレックス・パラダイス》1980年
高松市美術館蔵



11 《人間とトランジスタとの共生》1980-81年
国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫



12 《ブラックホールとワルツをどうぞ……》1982年
個人蔵

「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」 広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

発行・放送予定日（日時）： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ : _____ ~ _____ : _____

ご住所：〒 _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

*** 貸出をご希望するデータの口にチェックをつけてください**

1	工藤哲巳 1971年 撮影：工藤弘子 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
2	工藤哲巳 ハプニング「インボ哲学」 ブーローニュ映画撮影所（パリ）1963年2月 撮影：工藤弘子 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
3	工藤哲巳《X型基本体に於ける増殖性連鎖反応》1960年 東京都現代美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
4	工藤哲巳《あなたの肖像》1963年 高松市美術館蔵 撮影：高橋章 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
5	工藤哲巳《愛》1964年 倉敷市立美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
6	工藤哲巳《あなたの肖像'67》1967年 青森県立美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
7	工藤哲巳《あなたの肖像—種馬の自由》1973年 米津画廊蔵 撮影：福永一夫 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
8	工藤哲巳《石油と放射能の間での瞑想》1979年 福岡市美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
9	工藤哲巳《未来と過去とのエンドレステープの間での瞑想》1979年 青森県立美術館蔵 撮影：内田芳孝（ノマディック工房） ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
10	工藤哲巳《マザー・コンプレックス・パラダイス》1980年 高松市美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
11	工藤哲巳《人間とトランジスタとの共生》1980—81年 国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013
12	工藤哲巳《ブラックホールとワルツをどうぞ……》1982年 個人蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名（合計	枚） 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。
4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
Web サイトに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
6. 掲載紙(誌)は、2部、企画展室宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。
* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。
* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

< 報道関係のお問合せ >

東京国立近代美術館 企画課 企画展室 広報担当

〒102-8322 千代田区北の丸公園 3-1 TEL:03-3214-2564 / FAX:03-3214-2576